

- ✓ 都市部では、従来の市民農園だけでなく、農家以外の多様な主体が運営するコミュニティ農園が増えており、コミュニティの再生、環境教育や食育といった地域課題解決に貢献しています。
- ✓ また、人口減少や高齢化により都市の空洞化が進む中で、市街化区域内に生まれた空き地を緑地・農地として活用したり、魅力あるまちづくり、コミュニティづくりの一環として空き地を農園化するなどの動きが現れています。
- ✓ 今回、都市農地・農的空間を活用したコミュニティ農園の取組を事例として紹介します。

今後の取組の参考にご活用ください。

事例一覧

- | | | |
|----------|--|----|
| 1 | Edible KAYABAEN 農的空間/食育/循環型農業 | 27 |
| | ● 東京証券会館の屋上で子どもたちの食育の場を創出！ | |
| 2 | たもんじ交流農園 農的空間/伝統野菜/コミュニティ醸成 | 29 |
| | ● ワインづくりを通して都市農業の魅力を発信！ | |
| 3 | シェラトンファーム 農的空間/環境負荷低減/コミュニティ醸成 | 31 |
| | ● 都市住民と連携し循環型農業を実践！ | |
| 4 | コミュニティファーム尼崎市善法寺
都市農地貸借法/伝統野菜/コミュニティ醸成 | 33 |
| | ● 「田能の里芋」ブランド化を通して都市農号を未来へつなぐ | |

東京都中央区 Edible KAYABAEN

東京証券会館の屋上で

子どもたちの食育の場を創出！

丁寧にコミュニティを形成し、トライ&エラーで循環型の屋上菜園を実現していく

東京都中央区
日本橋茅場町

(一社) エディブル・スクールヤード・ジャパン代表 堀口博子さん

Point

農的空間

食育

循環型農業

Data

農園の概要

[場所] 東京都中央区日本橋茅場町 東京証券会館屋上

[面積] 約600㎡ (25区画 / 1区画 0.77㎡~4㎡)

[設備] フォレストガーデンエリア, ファームエリア, キッチン, ピオトープ, コンポスト, シネマステージ, 芝広場 等

運営体制

一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン (5名)
/ 平和不動産株式会社 / 株式会社ユニバーサル園芸社

農園開設の経緯を教えてください

◆Edible KAYABAENは、日本橋兜町・茅場町の地域活性化を推進する平和不動産株式会社が、株式会社ユニバーサル園芸社、一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパンと連携し、持続可能な地域循環の実現と子供たちの教育に貢献するため、所有する東京証券会館の屋上に開設した屋上ファームガーデンです。

◆当菜園の運営を担っている(一社)エディブル・スクールヤード・ジャパンは、2020年に本プロジェクトに参画しました。その後、1年かけて計画、2021年11月に着工、2022年5月に開園しました。開園に係る費用は平和不動産及び地域企業協賛により賄われています。

◆当菜園はパーマカルチャー*の考えに基づいた循環型農業を実践しています。菜園の設計には、パーマカルチャーデザイナーの本間フィル・キャッシュマン氏が関わっています。 *パーマナント(永続性)、アグリカルチャー(農業)、カルチャー(文化)を組み合わせた概念

◆屋上菜園には、荷重制限、夏の酷暑、強風、安全面など多くの課題がありますが、パーマカルチャー「問題の中に解決策がある」という考え方をモットーに、トライ&エラー、試行錯誤しながら取り組んでいます。



取組の特徴を教えてください

- ◆Edible KAYABAENのガーデンとキッチンをフィールドに、食と農・子どもたちの自然学校「アーススコーレ」を開催しています。都市部に生まれ育つ子供たちが、身近に本物の自然と親しみ、「育てること、食べること、観察すること」を通して学ぶことができる、食育菜園プログラムです。
- ◆また、大人向けのコミュニティプログラムとして、循環型屋上菜園の実現に向けたより実践的なワークショップ等を行っています。若い世代を中心にコミュニティの輪が広がってきています。
- ◆レンタルガーデンとして、当菜園のレイズドベッド3枠を地域の企業に貸し出しています。企業では、社員の親睦会など福利厚生の一環として利用いただいています。
- ◆近隣の中央区立阪本小学校では、当菜園を利用して2年生の生活科の授業を行っています。



アーススコーレのプログラム実施の様子

取組のきっかけを教えてください

- ◆元々は編集者として活動しており、2003年頃にサンフランシスコで地域の人々が農業に携わる姿に出会い、興味を持ちました。その中で、学校の校庭に畑を作り、子供たちが教科連携による食・農教育を受ける「エディブル・スクールヤード」の取組に感銘を受け、2006年に『食育菜園 エディブル・スクールヤード』を出版、2014年に（一社）エディブル・スクールヤード・ジャパンを設立しました。
- ◆2014年には、多摩市立愛和小学校で日本初のエディブル・スクールヤードを取り入れた菜園学習が始まりました。当時の校長に声をかけていただいたのがきっかけで、現在は、全学年の生徒が必修授業として取り組んでいます。菜園の管理は、保護者により結成された学校菜園サポーターが積極的にに関わり、週末に親子で草刈りをするなど、栽培管理全般を担ってくださっています。

工夫したことがあれば教えてください

- ◆菜園を中心に人が集まりコミュニティを育てること、丁寧に時間をかけてお互いを知り、尊重し合える関係づくりを意識しています。誰もがこの場所を心地よいと感じられることが大切です。
- ◆コミュニティの中に、アーティスト、シェフ、大学教授など、多様な人たちが参加すると活気のあるより良い取組になると思います。また、収穫物で料理をしたり、美味しいものを一緒に食べる、食卓を囲む環境を作ることをととても大事にしています。



今後の展望を教えてください

- ◆アーススコーレは平和不動産の支援のもと行われていますが、将来的には企業協賛を増やし、子どもたちの未来に投資いただく理念を広め、自走化することが不可欠です。そのために、アーススコーレの教育的価値と地域のニーズを繋げることが目下の目標です。
- ◆また、新しい職域として菜園学習や食農教育に関わる人が増えていくことを期待しています。

東京都墨田区 たもんじ交流農園

まちなかのコミュニティ農園で

江戸野菜・寺島なすの復活！

農地のない墨田区で、地域の交流拠点となるコミュニティ農園を開設



東京都墨田区



Point

農的空間

伝統野菜

コミュニティ醸成

Data

農園の概要

[場所] 東京都墨田区墨田5-30-19

[面積] 660㎡ (全12枠 24区画 / 1区画11.5㎡)

[設備] 農園、ピオトープ、ウッドデッキ、芝広場、ピザ窯、ブドウ棚 等

運営体制

NPO法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会
(会員25名、うち農業部隊12～13名)

農園開設の経緯を教えてください

- ◆東京都墨田区は、緑被率は23区内で下から2番目と緑が少なく、農地・農家が存在しない地域です。
- ◆当協議会は、商店街のまちおこしのため、旧寺島村（現在の東向島）で江戸時代に栽培されていた江戸東京野菜「寺島なす」の復活と普及プロジェクトとして、苗の配布や東向島駅前の花壇などで栽培を行っていました。しかし、活動が続けていく中で、もっと広い場所で寺島なすを作りたいと声が上がリ、農園の創設を検討していました。
- ◆そのような中、区内北部にある多門寺の臨時駐車場を「地域の役に立てれば」と、住職の厚意により無償で貸していただけることになり、野菜の栽培を通してさまざまな人の交流が生まれ、地域が活性化することを目的に、2017年に「たもんじ交流農園」の開墾を始めました。
- ◆駐車場は雑草が生い茂る砂利地だったため、農業用の土を入れ替えるなど、手作りで農園を作りあげました。協議会メンバーでどのようなコミュニティ農園にしたいかしっかりと時間をかけて話し合い、3カ年計画で農園を創設しました。
- ◆農園づくりに係る費用は、「すみだの夢応援助成事業*」等の助成金を積極的に活用しました。 *墨田区のふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング



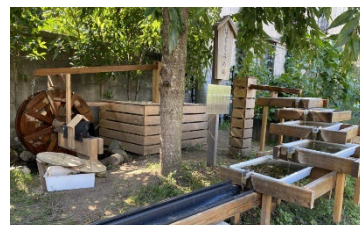
before



after

取組の特徴を教えてください

- ◆農園では、全12枠（23㎡/枠）ある畑を2分割したものを1区画（11.5㎡）として使用しています。そのうち4区画は、協議会用の区画として農体験やイベント用に寺島なすなどを栽培し、それ以外の区画は、月5,000円で会員に貸し出しています。
- ◆会員向けの区画では、利用者は自由に作付けができます。ただし、ナスについては交配のリスクがあるため、寺島なすに限定しています。
- ◆利用者は、墨田区を中心に近隣の方が多く、子育て世代から高齢者まで幅広い年代層の方に利用いただいています。また、福祉団体や中小企業の団体で借りている区画もあります。空き区画の利用者を募集した際は、当選倍率が10倍となり、かなり需要が高いことが分かりました。
- ◆去年は約5,200個の寺島なすを収穫できました。今年からは、土壌菌を増やす自然農法に挑戦し、安全で健康的な野菜作りに取り組んでいます。
- ◆農園には交流の場として、芝生広場やウッドデッキ、ピザ釜、ビオトープ等を整備しています。現在ビオトープでは、循環装置（水車を活用した水還流システム）を導入し、蛭が生息できるきれいな水質環境を目指しています。



苦労したことがあれば教えてください

- ◆元々はお寺の臨時駐車場として固定資産税は非課税でしたが、当農園は公的な活動をしているのに
も拘らず、雑種地として固定資産税が発生しました。そこで、国交省が推進する「市民緑地認定制度
*」の導入を墨田区提案し、2022年に区内初の認定を受け、固定資産税の軽減を受けられることにな
りました。 *良好な都市環境の形成に不可欠な緑地・オープンスペース創出するため、民間主体が空き地等を活用して公園と同等の空間を創出する制度。
- ◆なすは連作障害がでやすいため、接ぎ木をする必要がありますが、その技術が
中々難しいです。また、寺島なすは栽培管理の手間ひまがかかる上、生産力の
少なさから、認知度の低さが課題となっています。そこで、墨田区内の公園で
「寺島なす★祭り！」を開催し、寺島なすの認知度向上や生産者と飲食店の
マッチングの促進を行っています。



今後の展望を教えてください

- ◆区内には、江戸時代に将軍へ献上する寺島なすをはじめとした江戸野菜
を栽培していた「御前栽畑（ごせんざいばた）」の跡地があります。そこ
に、その場所に江戸野菜の栽培エリアや、ホテルの住処となる里山のような
環境を整備することで、歴史や文化に触れながら、豊かな自然環境を感じ
られる、世界に誇る都市型観光農園の創設を促したいと考えています。
- ◆コミュニティ農園は、防災農地という観点からも非常に重要だと考えています。災害時の避難場所
や食料の供給だけでなく、人と人のつながりを大切にし、日頃からコミュニケーションをとれる関係
性を築き、防災・減災に役立てていきたいです。

